

「前床突起基部からの前後方向の位置関係に着眼した前交通動脈（ACOM）瘤の治療成績の検討」の研究に関するお願いとお知らせ

Acom 瘤に対する開頭クリッピング術の難易度は瘤の大きさ、進展方向、さらに前頭蓋底からの高さや周囲の構造物との位置関係に関与しています。今回我々は開頭クリッピング術を施行した Acom 瘤において前床突起基部からの前後方向の位置関係と手術に伴う併発症との相関について検討することを目的にしています。Acom 瘤も対する外科的手術を施行する際に、前床突起基部からの前後方向の位置関係が手術成績に関与するようであれば、その点にも着目して手術戦略を考慮する必要があり、さらなる安全確実な手術を完遂できうる手段として社会に還元できうるものと考えています。

本研究では、2005年6月から2016年6月にかけて当院で開頭クリッピング術を施行した未破裂Acom瘤20例を対象としています。術前の所見として動脈瘤のサイズ、neck径、手術アプローチの方向、併発症、術後CT異常所見と前頭蓋底からの高さ、前床突起基部からの前後方向の距離などを主体に調べます。本臨床研究に参加することによる危険、不快になりうる状態は特にございませぬ。個人情報保護につきましては連結可能匿名化にて公的な発表において個人が特定されることはございません。本研究は、今後、研究のために患者さんから検体を採取したり投薬をしたりすることはなく、これまでの外来、および入院治療における既存資料などを用いる後方視的研究です。なお、研究成果については学術雑誌等への報告を予定しております。

上記期間に当院で診療を受けた方で、ご自身から検査の情報を研究に使わないでほしいというご希望が有れば、下記の連絡先までご連絡をいただけますようお願いいたします。今回の研究への使用の拒否の意思を表明されても、防衛医科大学校病院における診療には全く影響はなく、いかなる意味においても不利益をこうむることはありません。

連絡先：防衛医科大学校病院 脳神経外科

担当者：大谷 直樹

TEL：04-2995-1211

内線：2354